

令和 8 年度
全国学力・学習状況調査

調査結果報告
・
指導の改善策

旭川市教育委員会

旭川市教育委員会では、今年度より、本市が目指す学校教育とその達成に向けた具体的取組について系統的にまとめた「あさひかわ子どもの資質・能力育成ビジョン」を策定しており、各学校においては、確かな学力を育成する教育の推進、豊かな心と健やかな体を育成する教育の推進、子どもたちの多様な個性を伸ばす教育の推進の3つの柱との関連性を踏まえ、教育活動の一層の充実を図ることとしています。

特に、確かな学力を育成する教育の推進には、学びを深める授業づくり、落ち着いた学級づくり、望ましい習慣づくりの3つの指導の重点を位置付けており、各学校では、自校の取組と連動させた学力向上検証改善プランを作成し、授業改善を推進しているところです。

このような中、令和8年7月及び9月に、文部科学省より令和8年度全国学力・学習状況調査の結果提供を受け、調査の目的及び結果の取扱いに関する配慮事項を踏まえ、この度、本市の状況を分析・整理した調査結果報告を取りまとめるとともに、各教科における授業改善の重点を整理した指導の改善策を作成しました。

調査結果報告では、国語、算数・数学及び英語の教科ごとに、領域別・設問別の正答・誤答の傾向を分析し、成果と課題を明らかにしています。

また、指導の改善策では、授業改善に資する資料として、本市の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力や授業改善例についてまとめた授業改善のポイントに加え、新たに、児童生徒が学びの変容や成長を実感できるための指導の手立てを明確にした「確かな学力育成単元デザイン」を作成しました。

さらに、課題となった設問に関して、児童生徒の理解の深化を支援するよう、授業等で活用可能な学習プリントを作成しています。

各学校におかれましては、「あさひかわ子どもの資質・能力育成ビジョン」を基盤とし、本調査結果報告・指導の改善策及び学習プリントを積極的に活用しながら、児童生徒の学力向上に向けた検証・改善サイクルに基づく継続的な取組の一層の充実を期待しています。

令和8年10月

旭川市教育委員会教育長

和田英邦

調査結果報告及び指導の改善策の特徴と活用方法

調査結果報告

○ 教科に関する調査結果の概要

- ・ 全国、全道、本市の状況について数値で比較し、各教科の成果と課題を資質・能力ベースで分析

○ 質問調査結果の概要

- ・ 学習意欲や生活習慣、ICT の活用状況等について分析
- ・ 各教科の正答率と学習・生活習慣の相関関係について分析

自校の分析結果と比較



分析を基に学力向上検証改善プランを点検・修正し、組織的な授業改善に活用

家庭との連携



学習・生活習慣の確立に向けたポイントについて、参観日等での周知に活用

指導の改善策

○ 確かな学力育成単元デザイン

- ・ 単元の学習を通して、児童生徒が学びの変容や成長を実感できるようにするための指導の手立てを「導入」「展開」「終末」ごとに整理

○ 授業改善のポイント

- ・ 児童生徒に身に付けさせたい資質・能力や日常的な指導のポイントをまとめた授業改善例について紹介

日常の授業改善



単元の指導計画作成など、日常的な授業づくりの参考資料として活用

校内研修等で情報共有



効果的な指導の在り方を協議するなど、授業改善に資する資料として活用

〔目 次〕

I 調査結果報告

1 調査の概要	… 1
2 教科に関する調査結果の概要	
(1) 小学校	
ア 概況	… 3
イ 国語	… 4
ウ 算数	… 4
(2) 中学校	
ア 概況	… 5
イ 国語	… 6
ウ 数学	… 6
エ 英語	… 6
3 質問調査結果の概要	
(1) 小学校	
ア 概況	… 7
イ 学びを深める授業づくり	… 7
ウ 落ち着いた学級づくり	… 8
エ 望ましい習慣づくり	… 8
(2) 中学校	
ア 概況	… 9
イ 学びを深める授業づくり	… 9
ウ 落ち着いた学級づくり	… 10
エ 望ましい習慣づくり	… 10

II 指導の改善策

1 確かな学力育成単元デザイン	… 11
2 令和8年度全国学力・学習状況調査 授業改善のポイント	
(1) 小学校・国語	… 12
(2) 小学校・算数	… 13
(3) 中学校・国語	… 14
(4) 中学校・数学	… 15
(5) 中学校・英語	… 16

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(3) 調査に参加した学校数、児童生徒数

校 種	学校数	児童生徒数
小学校	49校	2,058人
中学校	24校	2,051人

※児童生徒数は、教科に関する調査のうち、回収した解答が最も多かったもの

(4) 調査実施日

令和8年4月23日（木）

※質問調査（小学校）については、令和8年4月24日（金）から5月8日（金）までの間に文部科学省 CBT システム（以下「MEXCBT」という。）によるオンライン方式（以下「CBT」（= Computer Based Testing）という。）で実施した。

※英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」及び質問調査（中学校）については、令和8年4月20日（月）から4月23日（木）までの間に CBT で実施した。

※英語「話すこと」については、令和8年4月28日（火）～5月29日（金）までの間に CBT で実施した。

(5) 調査事項及び手法

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学及び英語

※国語、算数・数学は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」（= Paper Based Testing））で実施した。

※中学校英語は、生徒が活用する1人1台端末等を用いた CBT で実施した。

※調査問題では、次の a と b が一体的に出題されている。

a 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

b 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(イ) 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

イ 学校質問調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

※小学校、中学校ともに CBT で実施した。

(6) 質問項目の分類の考え方

児童生徒に対する質問調査の全質問項目について、国立教育政策研究所の報告書における分類と「あさひかわ子どもの資質・能力育成ビジョン」の3つのカテゴリー（「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい習慣づくり」）を関連付け、下の表のとおり整理した。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号	
1 学びを深める授業づくり	地域や社会に関わる活動の状況等	小	33～34-2
		中	33～34-2
	I C Tを活用した学習状況	小	35～37-11
		中	35～37-11
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小	38～46
		中	38～46
	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	小	47～51
		中	47～51
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	小	52～59
		中	52～59
	学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	小	60～67
		中	60～67
2 落ち着いた学級づくり	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	小	8～21
		中	8～21
3 望ましい習慣づくり	基本的生活習慣等	小	1～7
		中	1～7
	学習習慣、学習環境等	小	22～32-4
		中	22～32-4

(7) 分析結果の整理

質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした児童生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問項目」、肯定的な回答をした児童生徒の割合が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問項目」として整理した。

(8) クロス集計

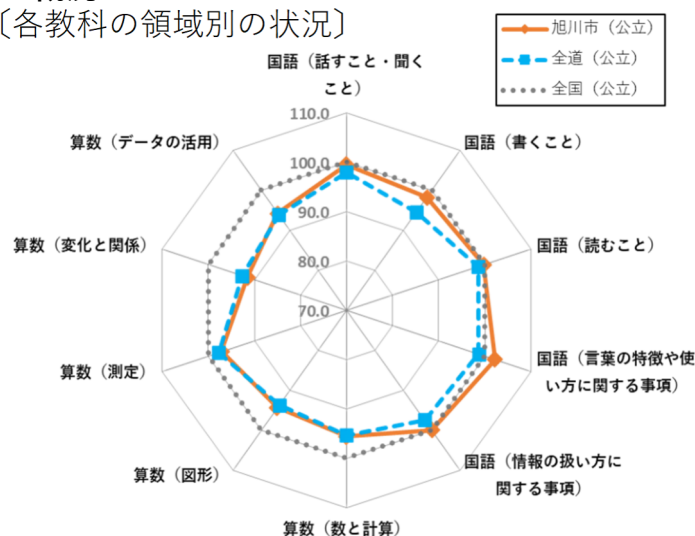
教科に関する調査結果における正答率の高い児童生徒（U層）とそれ以外の児童生徒（E層）の質問調査の回答状況を比較し、各教科の正答率と学習状況・生活習慣との相関関係を分析した。

2 教科に関する調査結果の概要

(1) 小学校

ア 概況

〔各教科の領域別の状況〕



全10領域等のうち、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全道及び全国を上回っている。国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「情報の扱いに関する事項」の4領域、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の3領域において全道を上回っている。

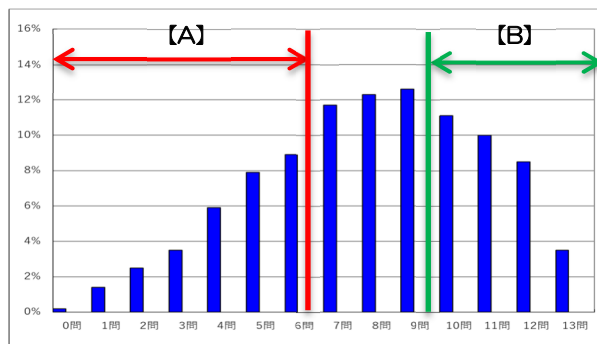
算数の「測定」「変化と関係」の2領域において全道及び全国を下回っている。

※ (本市の平均正答率) ÷ (全国平均正答率) × 100で算出

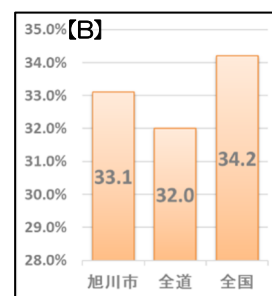
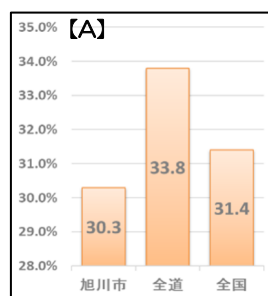
〔各教科の正答数の状況〕

(ア) 正答数の分布

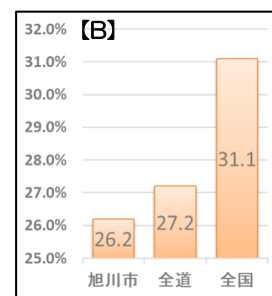
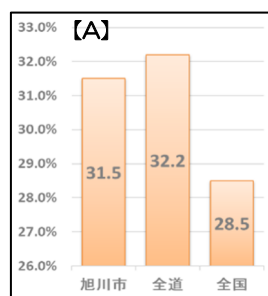
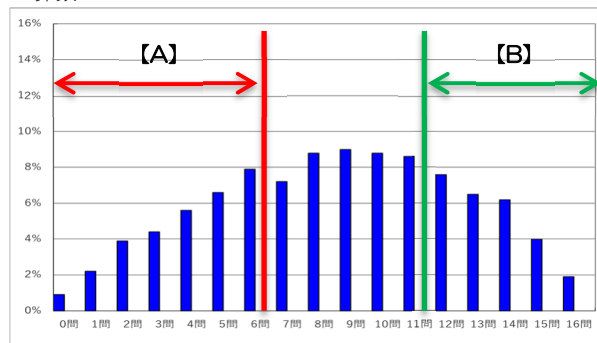
<国語>



(イ) 正答数の少ない層の割合 (ウ) 正答数の多い層の割合



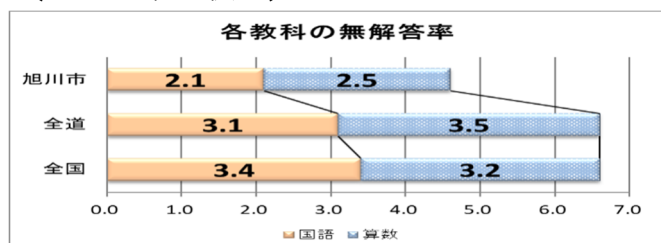
<算数>



<国語> 【A】に含まれる児童の割合は、全道より3.5ポイント、全国より1.1ポイント低い。
 【B】に含まれる児童の割合は、全道より1.1ポイント高く、全国より0.9ポイント低い。
 <算数> 【A】に含まれる児童の割合は、全道より0.7ポイント低く、全国より3.0ポイント高い。
 【B】に含まれる児童の割合は、全道より1.0ポイント、全国より4.9ポイント低い。

※【A】は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層（下位25%）」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。
 ※【B】は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層（上位25%）」と同じ範囲に含まれる児童の割合を表しています。

〔無解答率の状況〕



<国語> 無解答率が、全道より1.0ポイント、全国より1.3ポイント低い。
 <算数> 無解答率が、全道より1.0ポイント、全国より0.7ポイント低い。

イ 国語

○ 相当数の児童が身に付けている資質・能力

- 2 三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 3 三(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力【読むこと】
- 1 一 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える力【話すこと・聞くこと】

● 重点的に身に付けさせたい資質・能力

- 2 四 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力【書くこと】
- 3 三(1) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力【読むこと】
- 1 二(2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力【話すこと・聞くこと】

▶ 授業改善のポイントについては、P12へ

ウ 算数

○ 相当数の児童が身に付けている資質・能力

- 3 (1) 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくる力【数と計算】
- 4 (2) 示された情報を基に数量の関係に着目し、条件に合う時間を求める力【数と計算】【測定】
- 4 (4) 帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取る力【データの活用】

● 重点的に身に付けさせたい資質・能力

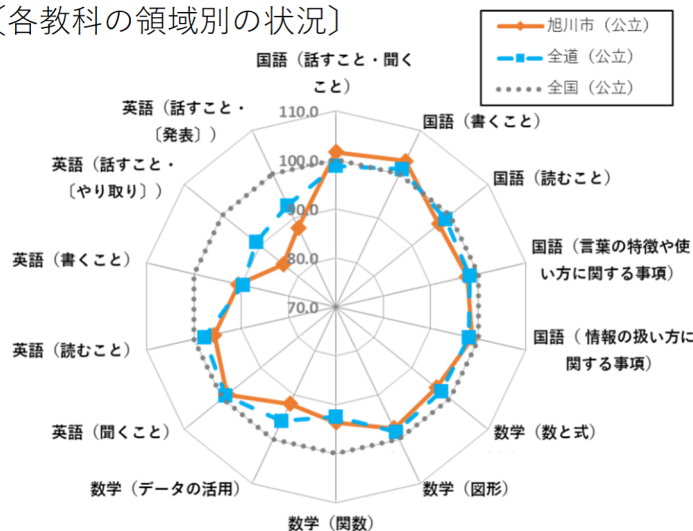
- 2 (4) 示された基準量と割合から、比較量を捉える力【数と計算】【変化と関係】
- 1 (3) 体積の意味を理解するとともに、問題を解決するために必要な情報を選び出す力【図形】
- 4 (3) 二次元の表から、条件に合う数を読み取る力【データの活用】

▶ 授業改善のポイントについては、P13へ

(2) 中学校

ア 概況

〔各教科の領域別の状況〕



全14領域等のうち、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域において、全道及び全国を上回っている。国語の「情報の扱い方に関する事項」、数学の「関数」、英語の「書くこと」において全道を上回っている。

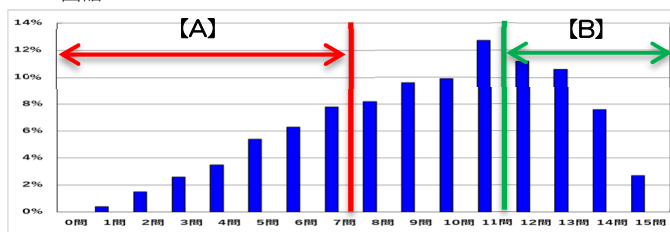
国語の「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の2領域、数学の「数と式」「図形」「データの活用」の3領域、英語の「聞くこと」「読むこと」「話すこと・やり取り」「話すこと・発表」の4領域において全道及び全国を下回っている。

※（本市の平均正答率）÷（全国平均正答率）×100で算出

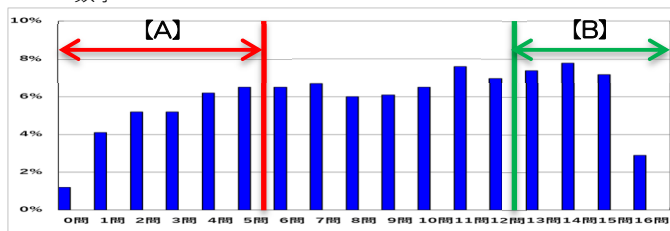
〔各教科の正答数の状況〕

(ア) 正答数の分布

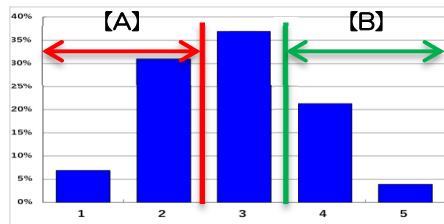
<国語>



<数学>

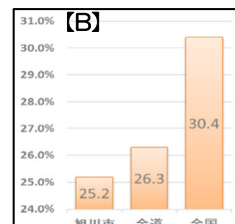
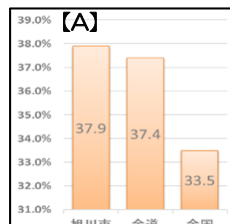
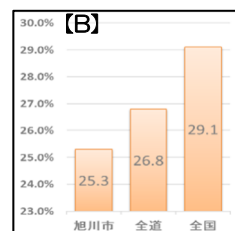
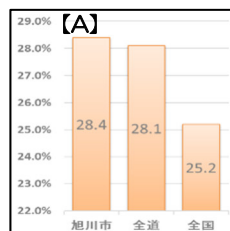
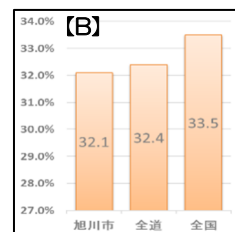
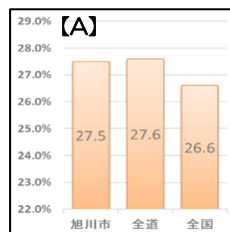


<英語>



(イ) 正答数の少ない層の割合

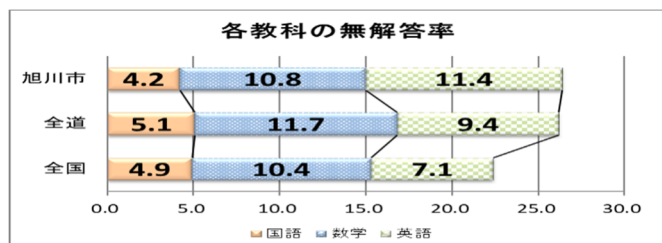
(ロ) 正答数の多い層の割合



<国語> 【A】に含まれる生徒の割合は、全道より0.1ポイント低く、全国より0.9ポイント高い。
 【B】に含まれる生徒の割合は、全道より0.3ポイント、全国より1.4ポイント低い。
 <数学> 【A】に含まれる生徒の割合は、全道より0.3ポイント、全国より3.2ポイント高い。
 【B】に含まれる生徒の割合は、全道より1.5ポイント、全国より3.8ポイント低い。
 <英語> 【A】に含まれる生徒の割合は、全道より0.5ポイント、全国より4.4ポイント高い。
 【B】に含まれる生徒の割合は、全道より1.1ポイント、全国より5.2ポイント低い。

※【A】は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の少ない層（下位25%）」と同じ範囲に含まれる生徒の割合を表しています。
 ※【B】は、正答数を4つの階層に分けたうち、全国の「正答数の多い層（上位25%）」と同じ範囲に含まれる生徒の割合を表しています。

〔無解答率の状況〕



<国語> 無解答率が、全道より0.9ポイント、全国より0.7ポイント低い。

<数学> 無解答率が、全道より0.9ポイント、全国より0.4ポイント高い。

<英語> 無解答率が、全道より2.0ポイント、全国より4.3ポイント高い。

イ 国語

○ 相当数の生徒が身に付けている資質・能力

- 1 一三 単語の活用や助動詞の意味・用法を正確に判別する力【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 2 一 目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する力【話すこと・聞くこと】
- 3 二 気持ちがより伝わるように、表現の効果を考えて工夫して書く力【書くこと】

● 重点的に身に付けさせたい資質・能力

- 3 一 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができる力【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 4 一 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える力【読むこと】
- 4 四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力【読むこと】

▶ 授業改善のポイントについては、P14へ

ウ 数学

○ 相当数の生徒が身に付けている資質・能力

- 1 具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表す力【数と式】
- 7 ① 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力【関数】
- 9 ② 箱ひげ図と四分位数の対応について理解し、読み取る力【データの活用】

● 重点的に身に付けさせたい資質・能力

- 4 反比例の関係を表す表の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求める力【関数】
- 8 ② 成り立つと予想した事柄について、仮定と結論を明確にして論理的に考察し、数学的に表現する力【図形】
- 9 ①③ 累積度数の意味を理解するとともに、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明する力【データの活用】

▶ 授業改善のポイントについては、P15へ

エ 英語

○ 相当数の生徒が身に付けている資質・能力

- 1 音声や語彙、文法などの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力【聞くこと】
- 11 ② 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる力【書くこと】
- 18 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる力【話すこと（発表）】

● 重点的に身に付けさせたい資質・能力

- 7 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る力【読むこと】
- 12 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる力【書くこと】
- 16 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる力【話すこと（発表）】

▶ 授業改善のポイントについては、P16へ

3 質問調査結果の概要

(1) 小学校

ア 概況

本市の小学校では、日常的に授業の中で ICT 機器が活用されている状況が見られます。また、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組もうとしたり、いじめは、どんなことがあってもいけないと思う気持ちが育まれたりしている児童の割合が高いです。

一方で、平日の SNS・動画を視聴する時間が長い傾向が見られるとともに、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強する児童の割合は低いです。



イ 学びを深める授業づくり

分析結果

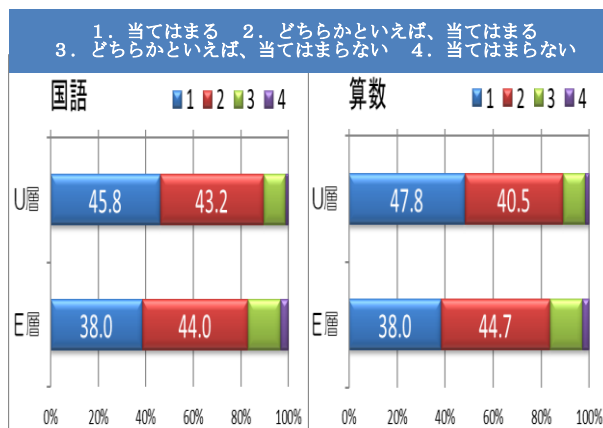
- 4 4 項目のうち「総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか」等の 2 5 項目において、肯定的な回答が 8 0 % 以上の高い割合を示しました。一方、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についたりしたいですか」等の 6 項目において、全国平均を下回りました。
- 3 年間の経年比較では、「5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」及び「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の 2 項目において、肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「国語の勉強は好きですか」や「算数の勉強は好きですか」等の 1 2 項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。
- 正答率の高い児童は、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」の項目において、肯定的に回答した割合が高い傾向にありました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

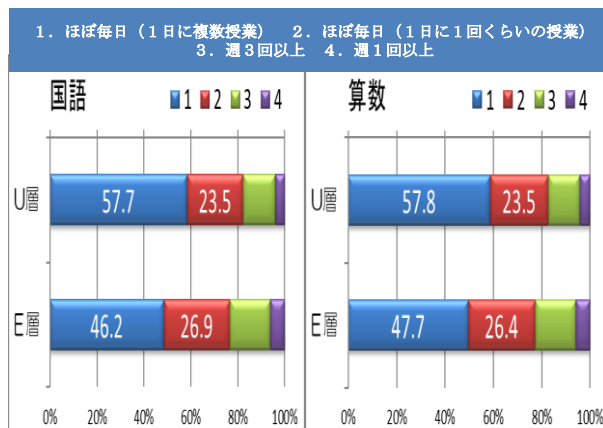
- 5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか（週 1 回以上 9 6. 4 %）
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか（9 2. 9 %）

正答率の高い児童（U 層）とそれ以外の児童（E 層）とのクロス集計

- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」



- 「5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」



ウ 落ち着いた学級づくり

分析結果

- 12項目のうち「学校に行くのは楽しいと思いますか」等の9項目において、肯定的な回答が80%以上の高い割合を示しました。一方、「友達関係に満足していますか」等の4項目において、全国平均を下回りました。
- 3年間の経年比較では、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」等の4項目において、肯定的な回答が90%以上の高い割合を示しました。減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（99.1%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（95.7%）
- 人が困っているときは、進んで助けていますか（93.5%）

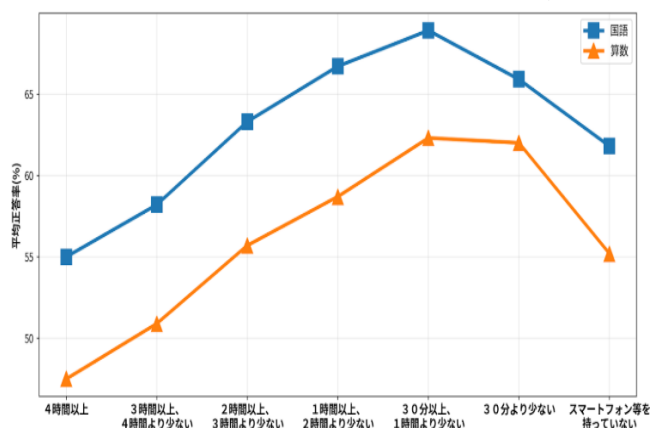
エ 望ましい習慣づくり

分析結果

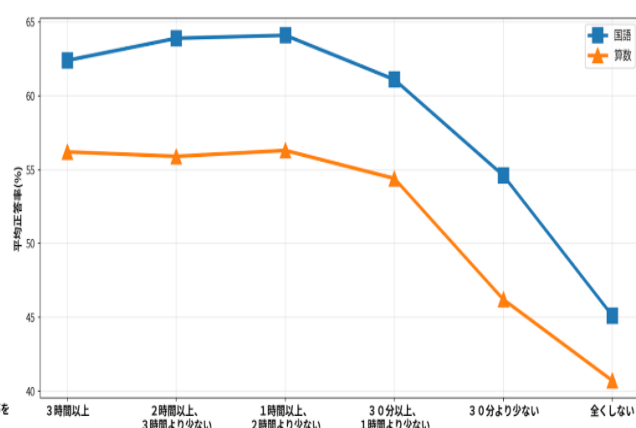
- 16項目のうち「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」等の4項目において、肯定的な回答が80%以上の高い割合を示しました。一方、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等の4項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、「朝食を毎日食べていますか」及び「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の2項目において、肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目において、1時間以上と答えた回答の割合が減少傾向にありました。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。

肯定的な回答が全国の数値を下回った質問項目と正答率の相関

- 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」



- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」



(2) 中学校

ア 概況

本市の中学校では、授業の中で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている状況が見られます。また、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組もうとしたり、いじめは、どんなことがあってもいけないと思う気持ちが育まれたりしている生徒の割合が高いです。

一方で、平日の SNS・動画を視聴する時間が長い傾向が見られるとともに、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強する生徒の割合は低いです。



イ 学びを深める授業づくり

分析結果

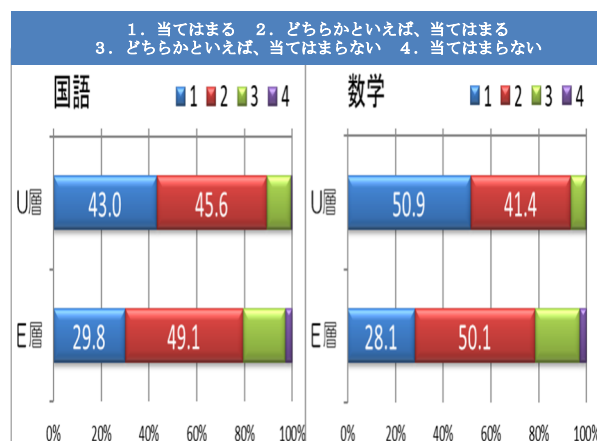
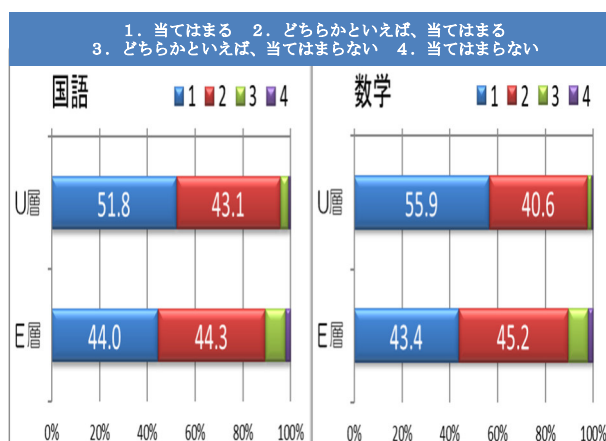
- 51項目のうち「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」等の25項目において、肯定的な回答が80%の高い割合を示しました。一方、「英語の勉強は得意ですか」等の10項目において、全国平均を下回りました。
- 3年間の経年比較では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」等の5項目において、肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の項目において、肯定的な回答が減少傾向にありました。
- 正答率の高い生徒は、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目において、肯定的な回答が80%以上の高い割合を示しました。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- 1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか（週1回以上 97.7%）
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか（93.4%）

正答率の高い生徒（U層）とそれ以外の生徒（E層）とのクロス集計

- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」



ウ 落ち着いた学級づくり

分析結果

- 12項目のうち「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」等の8項目において、肯定的な回答が80%以上の高い割合を示しました。一方、「学校に行くのは楽しいと思いますか」等の2項目において、全国平均を下回りました。
- 3年間の経年比較では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」等の5項目において、肯定的な回答が80%以上の高い割合を示しました。減少傾向にある項目はありませんでした。

肯定的な回答が特に高い割合を示した質問項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（98.3%）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（97.1%）
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか（93.6%）

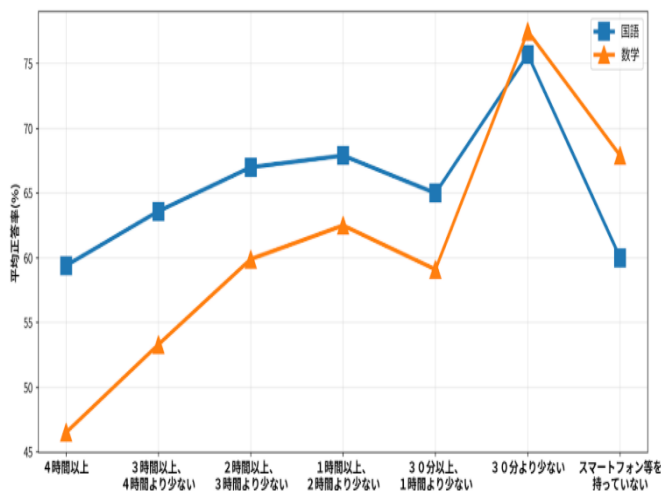
エ 望ましい習慣づくり

分析結果

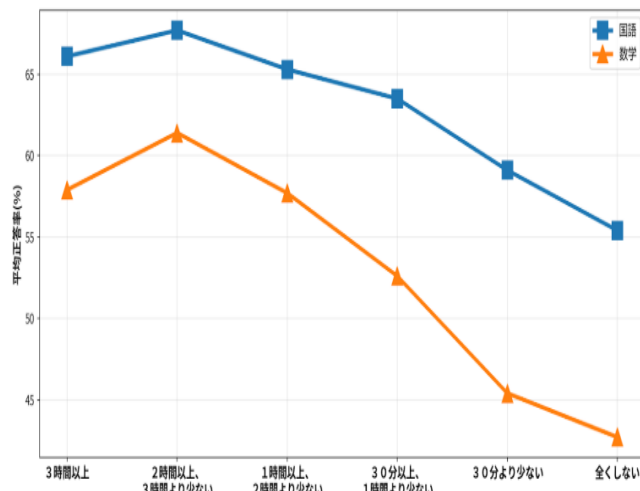
- 16項目のうち「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」等の3項目において、肯定的な回答が80%以上の高い割合を示しました。一方、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等の5項目において、肯定的な回答が低い割合を示しました。
- 3年間の経年比較では、「朝食を毎日食べていますか」及び「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の2項目において、肯定的な回答が増加傾向にありました。一方、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目において、1時間以上と答えた割合が減少傾向にありました。

肯定的な回答が全国の数値を下回った質問項目と正答率の相関

- 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」



- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」



主体的・対話的で深い学びの実現

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「デジタル学習基盤」の効果的な活用

導入 子どもと共に単元の学びを見通す

単元で身に付ける資質・能力の共有

単元の学習計画（時数、内容）の共有

学習課題や言語活動の共有

単元導入時の意欲、目標の言語化



単元で身に付ける資質・能力や学習計画を共有（例）

- **ゴールや解決過程の見通しをもたせる工夫**
 - ・単元で身に付ける資質・能力について、児童生徒が理解できる言葉で共有
 - ・単元の学習計画、学習課題、言語活動など、課題解決の過程や方法について共有
- **学びの意欲を高める仕掛け**
 - ・目的意識や相手意識を明確にした言語活動の設定
 - ・知的好奇心を高める問いの設定
 - ・問いに対して予想する場面の設定
 - ・単元導入時における学びの意欲や目標について言語化させる場面の設定

終末 子どもと共に単元の学びを振り返る

単元で身に付けた資質・能力の自覚

単元の学びを生かす活動

学習課題を自分でまとめる活動

単元終末時の振り返り（変容、成長）



単元の学びを生かして説明する活動（例）

- **資質・能力を自覚する活動の位置付け**
 - ・学習課題に対する答えを自分でまとめる活動
 - ・単元の学びを生かして、説明したり、議論したりする活動
 - ・身に付けた資質・能力を今後の学習や生活に関連付ける活動
- **学びの変容や成長を振り返る活動の位置付け**
 - ・単元導入時の予想と比較し、変容について振り返る活動
 - ・解決の過程を想起し、自身の成長について振り返る活動

単元の
学習過程

導入

展開

終末

展開 単元を通して、子どもが見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的に課題を解決する

身に付ける資質・能力と1単位時間の課題の関連性

探究的な学習過程の充実

各教科の見方・考え方を働かせた課題解決

目的を踏まえた多様な対話

● 1 単位時間における探究的な学習過程の工夫

課題の設定

- ・単元で身に付ける資質・能力と本時の学習課題との関連の共有
- ・必要感を生む問いや課題解決を見通す場面の設定

情報の収集

- ・視点や根拠を明確にした調査場面の設定
- ・多様な情報源から目的に合う情報を選択させる場面の設定

整理・分析

- ・情報を可視化する思考ツール等の提示
- ・協議の視点（共通点や相違点、情報の重要度等）の提示

まとめ・表現

- ・課題に対する答えを自分でまとめる活動の位置付け
- ・ねらいに正対した評価場面の設定と時間の確保
- ・家庭学習への見通しをもたせる活動の位置付け

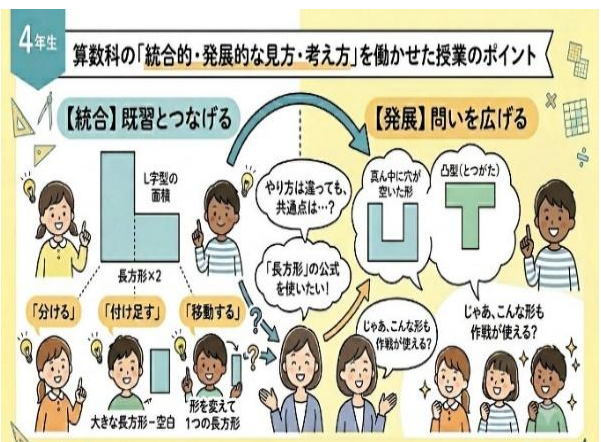
● 途中段階での学びの調整



1人1台端末を活用した振り返り（例）

- ・課題解決の進捗や学び方を振り返る活動や他者参照により、自身の学びを調整する場面の位置付け

● 見方・考え方を働かせた課題解決



統合的・発展的な見方・考え方を働かせた課題解決（例）

課題解決

見方・考え方を働かせ
説明する活動の設定

- ・考えの比較・関連付け
- ・他者の考えの解釈・説明
- ・教師の意図的な問い返し

学び合う学級風土

- ・目的を踏まえた多様な対話によって、考えを広げたり、深めたりする場面の位置付け
- ・互いの困り感を共有

教師の意図的な単元デザインによって、子どもが変容や成長を実感できる学びへ

目指す姿

引用する目的を明確にして、
自分の考えが伝わるように工夫する児童



1 身に付けさせたい資質・能力

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

【5・6年Bエ 考えの形成、記述】

2 本市児童の課題

- 目的を踏まえ、本、文章などから必要な語句や文を正しく抜き出すことができていない児童が多い
- 引用した部分と自分の考えとの関係を明確にすることができていない児童が多い

3 授業改善例

主張を明確にするために、根拠となる資料や文章を引用する活動の位置付け



学習活動のイメージ（例）

- ・ 引用する目的を明確にさせる。
- ・ 引用した資料や文章が自分の考えを明確にするための根拠となっているか考えさせる。
- ・ 本、文章などから、必要な語句や文を正しく書き抜くことができていないか推敲させる。

他者の考えを踏まえ、自分の考えをまとめる活動の位置付け



学習活動のイメージ（例）

- ・ 他者参照し、参考になった考えを引用し、自分の考えをまとめさせる。
- （例）「〇〇さんの・・・という考えは、この物語の核心を捉えている。同じように、私は、物語の魅力について・・・だと思った。」
- （例）「〇〇さんの・・・という振り返りが参考になった。私も・・・を大切にしていきたい。」

児童が自分の考えを伝える力を身に付けることができるよう、日常の授業において、教師が「つまり、どういうこと？」（抽象を促す問い返し）、「例えば、どういうこと？」（具体を促す問い返し）などと問い返し、説明する機会を増やすことが大切です。



筆者や作者、他者の考えから引用した部分と、自分の考えがつながっているかについて考えさせる活動を重視しましょう！

目指す姿

何をもとにしているかに着目し、数量の関係を比べたり、図や言葉でわかりやすく表現したりできる児童



1 身に付けさせたい資質・能力

示された基準量と割合から、比較量を捉える力

【5年C 変化と関係 (3) ア(ア)】

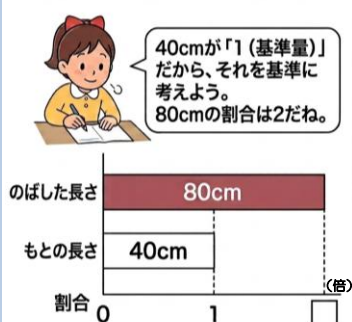
2 本市児童の課題

- 基準量、比較量、割合の関係を捉えることができていない児童が多い
- 差でみる場合と割合でみる場合の違いを理解することができていない児童が多い

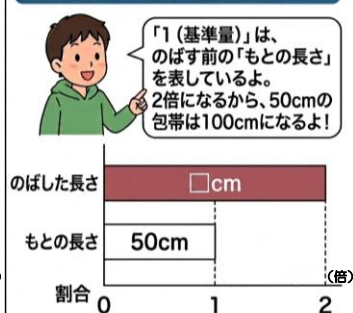
3 授業改善例

問題の場面をテープ図などに表し、その意味を説明する活動の位置付け

1. 問題場面を、テープ図に表す。



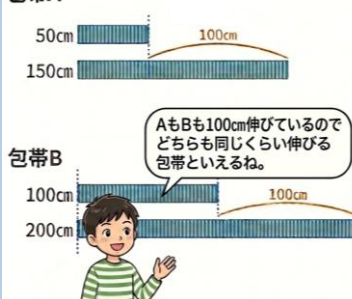
2. テープ図の「1 (基準量)」を示し、数量関係を言葉で説明する。



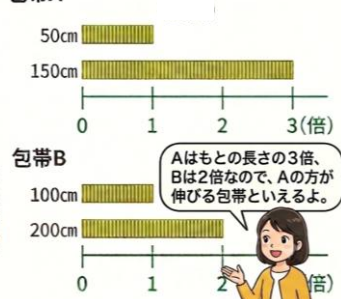
- ・問題の場面からテープ図や数直線などを用いて基準量と比較量を表す活動を取り入れる。
- ・表した図の中から、基準量と比較量を読み取り、割合を求めたり、説明したりする活動を取り入れる。

差でみる場合と割合でみる場合の違いをテープ図などで比較し、判断する活動の位置付け

包帯A 差でみる場合



包帯A 割合でみる場合



- ・問題の場面をテープ図などで表し、差でみる場合と割合でみる場合の違いを比較し、その違いを説明する活動を取り入れる。

参考資料 「1」を使った表現や、数量を関係付けて考える力の育成」(令和8年度 旭川市授業力向上プロジェクトチーム(算数・数学)作成)



基準量を1とみたときの比較量について、図や式に表したり、それらから数量の関係を読み取って判断したりする活動を充実させましょう！

目指す姿

文章を読んで理解したことに基づいて、
自分の考えの確かさの度合いを高める生徒



1 身に付けさせたい資質・能力

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力

【1年Cオ 考えの形成、共有】

2 本市生徒の課題

- 文章を読んで理解したことを具体的に書くことができていない生徒が多い
- 文章を読んで理解したことを基に、条件に従って自分の考えを書くことができていない生徒が多い

3 授業改善例

読解した内容を共有し、互いの視点の違いから考えを深める活動の位置付け



学習活動のイメージ（例）

- ・「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを整理させる。
- ・整理した内容を基に、他者に説明したり、他者の考えやその根拠などについて知ったりする場面を設け、互いの視点の違いや共通点を見付けさせる。

交流での気づきを踏まえ、自身の解釈を見つめ直す活動の位置付け



学習活動のイメージ（例）

- ・自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを次の条件に従ってまとめさせる。
- （例）自分の考えの根拠となった文章中の言葉を使って書く。
- （例）交流における「自分とは異なる意見や視点」に触れながら書く。
- ・文章の構造や内容をどのように捉え、精査・解釈したのかを振り返らせる。



文章の構造や内容をどのように捉え、精査・解釈したのかを、改めて振り返らせる活動を重視しましょう！

目指す姿

筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を

根拠を明らかにしながら説明できる生徒



1 身に付けさせたい資質・能力

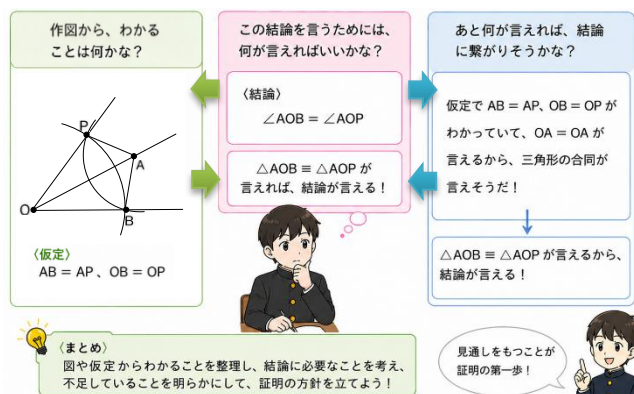
成り立つと予想した事柄について、仮定と結論を明確にして論理的に考察し、数学的に表現する力
【2年B 図形 (2)イ(ア)(イ)】

2 本市生徒の課題

- 証明の必要性和意味及びその方法について理解することができていない生徒が多い
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができていない生徒が多い

3 授業改善例

証明の方針を立てる活動の位置付け



- ・ 結論を導くために、必要な事柄を結論から逆向きに考える活動を取り入れる。
 - ・ 仮定や、仮定から導かれる事柄を明らかにする活動を取り入れる。
 - ・ 仮定から結論を導くために、あと何が言えればよいかを考える活動を取り入れる。
- ※これらの活動を、問題に応じて柔軟に使い分け、証明の方針を立てさせる。

自分なりに証明したり、よりよい証明に改善したりする活動の位置付け



- ・ 「したがって」「よって」などの言葉や用語、記号を用いて、まずは自分なりの表現で証明することから始める活動を取り入れる。
 - ・ 他者の証明を読む場面を位置付け、よりよい証明に改善したり、誤りのある証明を修正したりする活動を取り入れる。
- ※最初は口頭で説明することから始め、段階的に証明を記述する力を身に付けさせる。



証明の方法を理解するために、証明の方針を立て、それに基づいて証明することを大切にしましょう！

目指す姿

事実や自分の考え、心情などを整理し、
まとまりのある内容で表現・発信できる生徒



1 身に付けさせたい資質・能力

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容で書いたり、話したりすることができる力【書くこと イ】【話すこと（発表） イ】
社会的な話題な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えやその理由などを書いたり、話したりすることができる力【書くこと ウ】【話すこと（発表） ウ】

2 本市生徒の課題

- 体験したことや感想など、自分の言いたいことを表現することができていない生徒が多い
- 読んだり聞いたりして把握した内容に対し、自分の考えやその理由を表現することができていない生徒が多い

3 授業改善例

事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある内容で表現する言語活動の位置付け



言語活動のイメージ（例）

- ・ 日常的な話題や社会的な話題、小学校で扱った話題について、自分の考えや気持ちなどを交え、まとまりのある内容で書いたり、話したりして表現させる。
- ・ メモをしながら情報等を整理した結果を基に個人で自分の考えを書かせる。
- ・ 表現した内容が、相手に伝わるものとなっているか推敲させる。

複数の技能（領域）を効果的に関連付ける統合的な言語活動の位置付け



言語活動のイメージ（例）

- ・ 各技能、領域を個別に学ぶのではなく、「実際のコミュニケーションと同じように組み合わせる」ことを意識し、取り組ませる。
- ・ 英語で「聞くこと」や「読むこと」などから得た情報を基に、自分の考え、感想、心情などを整理して「書くこと」や「話すこと」によって伝えさせる。



英語による「発信力」の向上に向けて、まとまりのある内容で表現・発信する言語活動を重視しましょう！

教 育 長	和田 英邦
学 校 教 育 部 長	坂本 考生
学校教育部次長	工藤 秀敏
教育指導課主幹	常盤 慎一
教育指導課長補佐	角地 祐輔
教育指導課長補佐	柳澤 麻弥
教育指導課長補佐	沼澤 和範
教育指導課主査	樋口 奨
教育指導課主査	小林 弘典
教育指導課主査	鈴木 勇基
教育指導課主査	棚瀬 泰宏
教育指導課主査	寒川 寛之
教育指導課主査	山田 浩輝
教育指導課主査	田村 隆幸

学 校 教 育 部 主 幹	中山 智博
学校教育部主幹付副主幹	小山和歌子
学校教育部主幹付主査	森 走平
学校教育部主幹付主査	早川 裕章
学校教育部主幹付主査	伊藤 悟士

国語チーム

委 員 長：成田麻友子（東町小校長）
 副委員長：林崎 俊一（緑が丘小校長）
 狩集 慶一（北門中教頭）
 委 員：椎名 俊文（神楽中主幹教諭）
 菊地 高志（東町小教諭）
 平野奈那子（新富小教諭）
 蛭名 樹里（北光小教諭）
 磯尾 隼人（東光中教諭）
 山田 夕佳（江丹別中教諭）
 青田 京介（東明中教諭）

算数・数学チーム

委 員 長：高綱 智美（春光台中校長）
 副委員長：花本 明典（新富小教頭）
 委 員：金川 一代（近文小主幹教諭）
 石坂うた子（豊岡小教諭）
 三村 仁（神楽小教諭）
 三浦 義則（光陽中教諭）
 小幡 俊夫（東光中教諭）
 廣野 裕介（春光台中教諭）

理科チーム

委 員 長：五十嵐 徹（永山南小校長）
 副委員長：進藤 貴史（広陵中教頭）
 委 員：藤橋 真臣（永山南小主幹教諭）
 鹿野 貴広（新町小教諭）
 菊田 康平（千代田小教諭）
 中野 健（緑新小教諭）
 高橋 理（神居中教諭）
 田中 秀平（永山中教諭）
 穴戸 広太（啓北中教諭）

英語チーム

委 員 長：井上 祐司（神楽中教頭）
 副委員長：布施 朋子（愛宕東小主幹教諭）
 委 員：相木 千明（大有小教諭）
 高橋 歩美（高台小教諭）
 辻野 尚広（神楽小教諭）
 澤田 睦美（神居中教諭）
 原 俊之（永山南中教諭）
 中田 恭平（愛宕中教諭）
 高橋 祐介（東明中教諭）

